

一流の情熱と技術力 珊瑚から生まれた天然石材と沖縄伝統の 墓石を扱う石材総合メーカー

沖縄関ヶ原石材

首里城の近くに本社を置く沖縄関ヶ原石材(那覇市繁多川、緑間社長、098・855・4100、<http://www.oki-sekigahara.com>)は、国会議事堂や沖縄県庁、コザ信用金庫本店にも建築施工実績を持つ石材総合メーカーである。お墓や記念碑の建立、建設資材販売・施工、石材関連小売販売などを手がけ、特許を複数取得した技術力の高さは沖縄県内外から注目を集めている。

同社の取扱う天然石材勝連トラブーチン(琉球石灰岩)は、沖縄の珊瑚から永い年月を経て生まれ、真夏の炎天下での熱射による温度上昇を抑える特性に優れ、見た目も美しく、海岸や河川、プールサイドなどの親水施設に適している。

また、沖縄文化の一つである破風墓や亀甲墓などにおいて従来の重い香炉(約70

kg)を改善、本年3月特許を取得した技術によって一人でも持ち運べる香炉(約43kg・二分割)を開発した。さらに、お墓の主な石材である花崗岩(御影石)を産出する中国・福建省に合弁工場を保有しているため、受注・生産・納品までを一貫して行い、最高のサービスと品質を提供することが可能だ。

緑間社長が「昭和33年に当社を設立して以来、沖縄の石材会社として地元を愛するが故にここまで来ることができた」と語る通り、伝統を守ること、新しい技術を採用に入れていくことに情熱を傾け、地域発展の一助となるよう日々取組んでいる。



二段式香炉



総御影石造りの亀甲墓